

令和3年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
人権教育の推進	<p>【学校目標】 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、自他を大切に育てる態度の育成及びいじめなどの人権侵害を許さない人権感覚を育む。</p> <p>①生徒がお互いの人権や個性を認め合えるような環境を整え、いじめの早期発見・早期対応に努める。〔生徒指導・人権課〕 ②生徒人権委員会活動や「中高生による人権交流事業」への参加を通して、人権意識の高い生徒の育成に務める。〔生徒指導・人権課〕 ③学校と家庭が一体となった人権教育を推進する。〔生徒指導・人権課〕 ④生徒が安心して学校生活が送れるように、校内の相談支援体制の充実を図る。〔支援・研究課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①いじめ防止プログラムを実行する。教職員による「さん付け呼名」の共通理解といじめに関するアンケート調査、個別面談を実施する。(年間3回程度) また、全校集会を実施する。(年間3回程度) ②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」へ参加する。(20人程度) ③人権教育研修会と人権コンサート又は講演会の実施する。(各1回以上) ④生徒への有効な支援につなげるために、要望があれば心理検査等を実施したり、ケース会議を開催したりする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成 ①・「さん付け呼称」の共通理解と実施。 ・各HR担任による個別面談の実施。 ・いじめに関するアンケート調査の実施。 ③・人権コンサートの実施(11月)。 ④・心の理論課題の検査の実施(1年生24人, 希望者1人)。 ・校内ケース会議(10回)。</p> <p>未達成 ①・全校集会の実施(新型コロナウイルス感染症予防のため)。 ②・南部ブロック生徒部会の参加人数(参加生徒10人)。 ③・人権教育研修会の開催(新型コロナウイルス感染症予防のため)。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>生徒がお互いの人権や個性を認め合えるよう、「さん付け呼称」を教職員で共通理解し、継続実施した。個別面談(ゆるトーク)で、担任が生徒の悩みや将来への想いを受容的に聴くように努めた。 人権意識を高めるための、「中・高生による人権交流会」はオンライン及び集合研修で開催され、10名の生徒が参加した。 人権教育研修会は新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。人権コンサートを実施し、発達障がい当事者の方の歌や講演を聴き、エンパワーされた。 スクールカウンセラー事業の活用が大変効果的であり、生徒・保護者のニーズに寄り添う相談を定期的に行うことができた。 また、生徒に関わる支援者間で共通理解や一貫した対応を図るために、積極的にケース会の必要性を呼びかけ、生徒の支援に繋げることができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、しっかりと人権教育に取り組んでいる。いじめに関するアンケートを実施し、個別面談の際も丁寧に聞き取りを行い、個々の生徒に指導を行いながら、人権コンサートを開催したり、「中・高生による人権交流会」に生徒を参加させたりと生徒の興味関心を引き出す取組ができています。 引き続き、みなと高等学園の人権教育の推進に取り組んでいただきたい。</p>	<p>①今年度はいじめに関する問題行動は見られなかったが、「いじめは絶対に許さない」という強い認識を学校全体で徹底し、組織的に取り組む必要がある。日頃の生徒の様子を丁寧に見守る体制を今後も継続していく。 ②今年度はオンライン及び集合研修での実施であったが、人権交流集会南部ブロック生徒部会への参加は、他校生との交流やリーダーシップの醸成など有益であるため、積極的な参加を呼びかける。 ③コロナ禍で開催を見送った保護者・教職員人権教育研修会を来年度は開催したい。保護者のニーズも考慮して講師の選定を行い、保護者の参加を呼びかけたい。 ④二次障害を抱える生徒の不登校や不適切な行動等の諸問題に対応するために、各校務分掌やスクールカウンセラー、外部機関との連携を一層強化していく必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①教職員による「さん付け呼名」を研修や会議で共通理解を図り、周知徹底させる。いじめに関するアンケート調査と個別面談を実施し、いじめの早期発見と教職員への相談を促す。いじめの認知については、学校いじめ対策組織で組織的に判断する。 ②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に参加し、他校生と交流を深める。 ③保護者・教職員を対象とした人権問題研修会や生徒・保護者・教職員を対象とした人権コンサート又は講演会を実施する。 ④校内支援コーディネーターの統括のもと、各学年の支援・研究課員が学年主任と連携して、学年会等での様々なニーズの把握に努める。また、スクールカウンセラー事業を活用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教職員による「さん付け呼称」を研修や会議で周知徹底させて共通理解を図った。いじめに関するアンケート調査を実施するとともに、ホームルーム担任による個別面談等で聞き取りを行い、いじめの早期発見を図った。 ②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会等にオンライン及び集合研修で参加し、他校生と交流を深めることができた。 ③保護者を対象とした研修会は、新型コロナウイルス感染症予防のため実施しなかったが、文書による啓発等を中心に行った。 ④各学年会や支援課会で生徒の気になる状況について機会を設定して生徒の情報共有に努めるとともに、年間10回のケース会議を開催し、適切な支援について話し合った。今年度はスクールカウンセラー事業を年間9回(2月現在)活用し、生徒・保護者からのべ13件の相談があった。</p>			

キャリア教育の充実	<p>【学校目標】 生徒個々の資質や適性に応じ、職業能力や意欲等を高める指導を系統的・組織的に実施し、社会的・職業的自立に結びつける指導を推進する。</p> <p>①新型コロナウイルス感染状況等に応じて適切な対策を取り、可能な限り生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図り、最適な進路選択ができる。 〔進路指導課〕</p> <p>②新型コロナウイルスの感染状況により、電話連絡・職場訪問を行い、適宜卒業生へのアフターフォローを実施することにより、進路先での定着を図る。 〔進路指導課〕</p> <p>③就業についての知識や理解を深め、新型コロナウイルスの感染症対策をとりながら、保護者が子どもの進路や卒業後の生活について、相談する場を提供する。 〔総務・環境課〕</p> <p>④各種技能検定にチャレンジすることで、技能の習得を図るとともに、働く意欲や態度を育てる。 〔支援・研究課〕</p> <p>⑤自分発見チェックリストを実施することで、生徒自身の自己理解を深め、社会的・職業的自立のための基礎をつくる。 〔支援・研究課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①就業体験2回以上。進路説明会1回（各学年の保護者対象）。拡大進路相談（2年生の生徒と保護者対象）を個別に実施。進路便りを年間12回発行する。</p> <p>②令和2年度卒業生の進路先（県内）を全て訪問する。</p> <p>③保護者に後期就業体験時の生徒の様子についてアンケートを取る。内容は、PTA通信に掲載する。</p> <p>④とくしま特別支援学校技能検定の4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）全てに参加する。事後アンケートにおいて95%以上の生徒から「検定に参加してよかった」という回答が得られる。</p> <p>⑤チェックリストの結果について振り返る授業を1、2年のすべてのクラスにおいて年間1回以上行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成</p> <p>①・就業体験は各学年校内実習を2回、1年生は事業所見学、現場実習1回、2年生は現場実習2回、3年生は現場実習を3～4回実施。 ・進路説明会は各学年別に開催 12月 ・拡大進路相談2年生は、2～3月実施 ・進路便りは、年間13回発行。</p> <p>②・令和2年度卒業生全員の進路先を適宜必要に応じて訪問しアフターフォローを実施した。</p> <p>④・とくしま特別支援学校技能検定の4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）全てに参加。 ・事後アンケートにおいて96%以上の生徒から「検定に参加してよかった」と回答。</p> <p>⑤・チェックリストの結果について振り返る授業を1、2年のすべてのクラスにおいて年間1回以上実施。</p> <p>未達成</p> <p>③・PTA通信の内容変更のため、保護者アンケートは中止。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>各学年の進路担当者が中心となり、生徒・保護者・担任のニーズに応じた就業体験・進路学習・進路相談・進路説明会の計画と実施ができた。進路相談に加え、1、2年生を対象にキャリアカウンセリングを今年度より実施した。新規の職場開拓を積極的に行うことにより、生徒の適性に応じた実習先・進路先を確保することができた。卒業生のアフターフォローについても、関係機関との連携により不具合に対して迅速に対応することができた。昨年度卒業生において2名の離職があったが、関係機関と連携し再就職できた。生徒は、各種検定にチャレンジすることで課題意識をもって意欲的に学習することができた。</p>	<p>みなと高等学園では、生徒の社会的・職業的自立をめざして1年生の段階から、校内実習や就業体験・進路学習・進路相談に取り組みしており、多くの卒業生が就労を実現できている。自分発見チェックリストを活用し、自分の特徴や長所、課題を理解した上で、個々に応じた支援が実施できている。また、多くの生徒が技能検定に意欲的に取り組み、学ぶことにより就労に対する意欲を高められている。更に、進路の定着をめざして卒業生に対するアフターフォローの取組も評価できる。コロナ禍においても、生徒の進路が実現できるよう引き続きしっかりと取り組んでほしい。</p> <p>①生徒の実態の多様化に対応するため、卒業後すぐの就職だけでなく、就労継続支援等の福祉サービスを経て将来的に就職をめざすことも必要となってきた。関係機関との連携についても、卒業後の支援体制の構築に向けて、より早い段階から規模も拡大して取り組みたい。各学年の進路担当者が中心となり、進路学習や就業体験を実施し、生徒の実態に応じた進路指導の取組を行いたい。また、進路便りを発行すること等で情報提供・共有を保護者の方と行い、本人に合った進路選択・決定が行えるようにしていきたい。</p> <p>②今後も卒業生のアフターフォローを継続し、限られた人員と時間で効果的なアフターフォローができるように、進路先や関係機関と連携協力を進めていきたい。また、卒業生や保護者からの相談を受けたり、関係機関等との情報共有を進め、早期に対応することで、ニーズに応じたアフターフォローができるようにしていきたい。</p> <p>⑤自己理解を促すことで、「できないこと」に対してどのように働きかけていくのか、指導・支援のプロセスを検討して行く必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①関係機関等と情報交換を行いながら状況を把握し、進路指導課が中心となって、HR担任や保護者、事業所等と綿密に連携して就業体験を計画・実施するとともに、生徒や保護者のニーズに応じた、進路に関する相談会を実施する。</p> <p>②定期的に卒業生の進路先を訪問するとともに、進路先事業所や支援機関から状況を確認しながら適宜対応し、必要に応じて関係機関を交えたケース会議を実施する。</p> <p>③新型コロナウイルスの感染症対策をとりながら年内に実施計画している茶話会（飲食はしない）で、卒業生保護者の話を聞く会を1回設定する。進路・生活支援委員が企画する。</p> <p>④とくしま特別支援学校技能検定の4部門に生産サービス科と流通システム科の生徒を中心に参加して授業の成果を発揮する。</p> <p>⑤チェックリストの自己評価及び他者評価を1年生は年間2回（7月・2月）、2年生は年間1回（7～12月）実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①関係機関等と情報交換を行いながら、生徒の個性や本人・保護者のニーズに合わせた就業体験を実施することができた。また、全学年の保護者を対象に進路説明会を開催し、2年生は関係機関を交えた拡大進路相談を個別に実施した。必要に応じてケース会・個別の進路相談を実施できた。進路便りを年間13回発行し、就業体験の取組や進路に関する情報提供を行った。</p> <p>②関係機関と連携し、令和2年度卒業生全ての進路先を訪問するとともに、課題が発生した場合には、必要に応じて、ケース会議を開催するなど定着支援を行った。令和2年度卒業生の離職者は2名であった。2名については再就労できた。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策のため3年保護者のみの参加とし、れもんワークス施設長津川様を講師にお呼びし、障がい年金の申請についての研修を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期して3月末に研修会を開催する。</p> <p>④とくしま特別支援学校技能検定の4部門に、生産サービス科と流通システム科の専門教科の授業で指導を行い、延べ114名の生徒が検定にチャレンジできた。</p> <p>⑤チェックリストの自己評価及び他者評価を1年生は年間2回（7月・2月）、2年生は年間1回（7～12月）実施した。生徒自身が課題意識を持って主体的に克服に向けて取り組んだり、他者評価の受け止め方について学んだりすることができた。</p>		

<p>個別の指導計画の効果的な活用</p>	<p>【学校目標】 生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を組織的に推進する。</p> <p>①生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、教員の授業力の向上を図る。 〔支援・研究課〕</p> <p>②生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、授業時間数を最大限確保する。 〔教務課〕</p> <p>③新学習指導要領について各教科で内容確認を行う時間を計画し、新年度に向けての準備を整える。 〔教務課〕</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="742 149 1320 212">評価指標</th> <th data-bbox="742 212 1320 485">評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="742 212 1320 485"> ①授業プランの事後評価において、教員評価と生徒評価の数値が事前評価に比べてポイントが向上する。 ②教務課会で、授業実施時数を毎月確認することで、バランス良く授業消化が行えるようにする。 ③放課後や、長期休業中に研修できる時間を年間2回程度確保する。 </td> <td data-bbox="742 212 1320 485"> 達成 ①・教員評価、生徒評価ともに事前評価の数値が向上。 ②・授業実施時数を、毎月確認しながら振替時間割の作成ができた。 ③・年間2回の研修時間を設定できた。 未達成 なし </td> </tr> <tr> <th data-bbox="742 485 1320 548">活動計画</th> <th data-bbox="742 485 1320 1041">活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td data-bbox="742 485 1320 1041"> ①生徒の実態を的確に把握し、指導・支援のスキルアップを図ることを目的に、職員研修を計画・実施する。教員が7月に授業プランを立てて、授業改善を行い、2月に評価する。 ②各部署と行事の調整を行い、授業時間の確保に努める。教務課内で授業実施時数を確認しながら振替授業の計画を行う。 ③-1 新学習指導要領の変更点等について、各教科内で共通理解を図る。 ③-2 時間割上の名称を検討する。 ③-3 新年度に向けて、時間割作成の準備や授業体制を整える。 </td> <td data-bbox="742 485 1320 1041"> ①職員研修として、生徒の実態や教員の研修ニーズをもとに、参加型校内研修「みなとーく」を年間6回実施した。また、発達障がいへの認知の特徴の理解と対処法についての全体研修会（8月）を、外部講師を招いて実施した。 ②見通しを持ちながら計画的な振替は概ね実施できた。新型コロナウイルス感染症の関係で予定した授業が行えなくなった等の影響は出ていた。 ③-1 教科内で、県教委主催の研修会の内容の伝達を行ったり、文科省の資料を読んだりして研鑽を深めてもらった。 ③-2 教科名の変更となる教科で検討し、案を提出してもらった。 ③-3 現在、年度末の教科アンケートを実施中である。 </td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価指標の達成度	①授業プランの事後評価において、教員評価と生徒評価の数値が事前評価に比べてポイントが向上する。 ②教務課会で、授業実施時数を毎月確認することで、バランス良く授業消化が行えるようにする。 ③放課後や、長期休業中に研修できる時間を年間2回程度確保する。	達成 ①・教員評価、生徒評価ともに事前評価の数値が向上。 ②・授業実施時数を、毎月確認しながら振替時間割の作成ができた。 ③・年間2回の研修時間を設定できた。 未達成 なし	活動計画	活動計画の実施状況	①生徒の実態を的確に把握し、指導・支援のスキルアップを図ることを目的に、職員研修を計画・実施する。教員が7月に授業プランを立てて、授業改善を行い、2月に評価する。 ②各部署と行事の調整を行い、授業時間の確保に努める。教務課内で授業実施時数を確認しながら振替授業の計画を行う。 ③-1 新学習指導要領の変更点等について、各教科内で共通理解を図る。 ③-2 時間割上の名称を検討する。 ③-3 新年度に向けて、時間割作成の準備や授業体制を整える。	①職員研修として、生徒の実態や教員の研修ニーズをもとに、参加型校内研修「みなとーく」を年間6回実施した。また、発達障がいへの認知の特徴の理解と対処法についての全体研修会（8月）を、外部講師を招いて実施した。 ②見通しを持ちながら計画的な振替は概ね実施できた。新型コロナウイルス感染症の関係で予定した授業が行えなくなった等の影響は出ていた。 ③-1 教科内で、県教委主催の研修会の内容の伝達を行ったり、文科省の資料を読んだりして研鑽を深めてもらった。 ③-2 教科名の変更となる教科で検討し、案を提出してもらった。 ③-3 現在、年度末の教科アンケートを実施中である。	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1320 149 1872 212">総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1320 212 1872 1041"> (評定) B 教員一人一人が授業プランを立てることで、課題意識を持って日々の授業に取り組むことができた。 授業時数については年間を通して概ねバランス良く時間数の確保が行えた。 新教育課程に対応した評価方法について検討会は数回持てたが、もう少し本校の実態にあった表記等について検討を重ねたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	(評定) B 教員一人一人が授業プランを立てることで、課題意識を持って日々の授業に取り組むことができた。 授業時数については年間を通して概ねバランス良く時間数の確保が行えた。 新教育課程に対応した評価方法について検討会は数回持てたが、もう少し本校の実態にあった表記等について検討を重ねたい。	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、個別の指導計画に基づき、生徒の実態に合わせて学習や支援を行っている。 引き続き、とくしま GIGA スクール構造のもと、ICTの活用を図りながら、生徒にとって分かりやすい授業を進めてほしい。</p>	<p>①生徒の実態に応じた個別の指導計画の目標設定、指導・支援の工夫ができるように、アセスメントのさらなる充実を図る必要がある。 ③新学習指導要領の実施に伴う、主体的・対話的で深い学びの実現や、GIGAスクール構想のもと、ICTの活用の視点を取り入れた授業改善を図ることが求められる。 年次進行で新教育課程の実施が始まるので、各種資料の変更や、評価方法についての検討や共通理解を深めていく必要がある。</p>
評価指標	評価指標の達成度														
①授業プランの事後評価において、教員評価と生徒評価の数値が事前評価に比べてポイントが向上する。 ②教務課会で、授業実施時数を毎月確認することで、バランス良く授業消化が行えるようにする。 ③放課後や、長期休業中に研修できる時間を年間2回程度確保する。	達成 ①・教員評価、生徒評価ともに事前評価の数値が向上。 ②・授業実施時数を、毎月確認しながら振替時間割の作成ができた。 ③・年間2回の研修時間を設定できた。 未達成 なし														
活動計画	活動計画の実施状況														
①生徒の実態を的確に把握し、指導・支援のスキルアップを図ることを目的に、職員研修を計画・実施する。教員が7月に授業プランを立てて、授業改善を行い、2月に評価する。 ②各部署と行事の調整を行い、授業時間の確保に努める。教務課内で授業実施時数を確認しながら振替授業の計画を行う。 ③-1 新学習指導要領の変更点等について、各教科内で共通理解を図る。 ③-2 時間割上の名称を検討する。 ③-3 新年度に向けて、時間割作成の準備や授業体制を整える。	①職員研修として、生徒の実態や教員の研修ニーズをもとに、参加型校内研修「みなとーく」を年間6回実施した。また、発達障がいへの認知の特徴の理解と対処法についての全体研修会（8月）を、外部講師を招いて実施した。 ②見通しを持ちながら計画的な振替は概ね実施できた。新型コロナウイルス感染症の関係で予定した授業が行えなくなった等の影響は出ていた。 ③-1 教科内で、県教委主催の研修会の内容の伝達を行ったり、文科省の資料を読んだりして研鑽を深めてもらった。 ③-2 教科名の変更となる教科で検討し、案を提出してもらった。 ③-3 現在、年度末の教科アンケートを実施中である。														
総合評価															
(評定) B 教員一人一人が授業プランを立てることで、課題意識を持って日々の授業に取り組むことができた。 授業時数については年間を通して概ねバランス良く時間数の確保が行えた。 新教育課程に対応した評価方法について検討会は数回持てたが、もう少し本校の実態にあった表記等について検討を重ねたい。															
<p>センター的機能の充実</p>	<p>【学校目標】 専門性の向上に努め、高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し積極的な助言及び支援を推進するとともに、保護者・地域・関係機関と密接に連携し信頼される学校づくりに努める。</p> <p>①県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育に関する相談支援や研修支援を行う。 〔支援・研究課〕</p> <p>②信頼される学校づくりのため、積極的な情報発信を推進する。 〔情報課〕</p> <p>③保護者との連携協力を推進する。在校生の保護者同士の交流を含めた活動を実施する。 〔総務・環境課〕</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="742 1041 1320 1104">評価指標</th> <th data-bbox="742 1104 1320 1440">評価指標の達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="742 1104 1320 1440"> ①外部依頼の教育相談件数20件、研修会等への支援回数2件以上。発達障がい教育研究会（第1回）の参加数が50人。 ②行事等のホームページ更新数100回以上。 ③新型コロナウイルスの感染症防止対策を考え、活動場所や内容を精選し、保護者と生徒と一緒に活動する会を実施する。 </td> <td data-bbox="742 1104 1320 1440"> 達成 ①・外部向け相談件数は39件。 ・研修会への支援回数は7回。 ・巡回相談員が県内の通級指導教室を設置する高等学校への支援を実施。 ・発達障がい教育研究会参加者50人。 ②・行事等のホームページ更新212回。 未達成 ③・保護者と生徒と一緒に活動する会は新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施。 </td> </tr> <tr> <th data-bbox="742 1440 1320 1503">活動計画</th> <th data-bbox="742 1440 1320 1963">活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td data-bbox="742 1440 1320 1963"> ①県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して、相談支援や研修支援について広報活動を行う。県内の学習支援員配置校に対して、授業参観等を実施し、指導・支援のサポートを行う。県内の高等学校等の教員を対象にした発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に計画・実施する。 ②各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT機器の設備を充実できるように努めるとともに、機器の使い方や発信方法等について研修する機会を設定する。 ③PTA活動の一環として、PTA通信の発行を2回、「親 to 子 with みなと」を実施する。 </td> <td data-bbox="742 1440 1320 1963"> ①市町村の特別支援教育連携協議会や特別支援学級担当者教員研修会において広報活動を行った。県内の学習支援配置校2校に対して、校内支援体制や個別の指導計画の書き方、学習支援員を効果的に活用するチーム・ティーチングについてなどの助言を行うことができた。県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に実施した。 ②各行事の担当者においてホームページの更新を適宜実施した。 ③PTA通信「みなと CREW」を年2回発行することができた。「親 to 子 with みなと」は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかった。 </td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価指標の達成度	①外部依頼の教育相談件数20件、研修会等への支援回数2件以上。発達障がい教育研究会（第1回）の参加数が50人。 ②行事等のホームページ更新数100回以上。 ③新型コロナウイルスの感染症防止対策を考え、活動場所や内容を精選し、保護者と生徒と一緒に活動する会を実施する。	達成 ①・外部向け相談件数は39件。 ・研修会への支援回数は7回。 ・巡回相談員が県内の通級指導教室を設置する高等学校への支援を実施。 ・発達障がい教育研究会参加者50人。 ②・行事等のホームページ更新212回。 未達成 ③・保護者と生徒と一緒に活動する会は新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施。	活動計画	活動計画の実施状況	①県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して、相談支援や研修支援について広報活動を行う。県内の学習支援員配置校に対して、授業参観等を実施し、指導・支援のサポートを行う。県内の高等学校等の教員を対象にした発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に計画・実施する。 ②各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT機器の設備を充実できるように努めるとともに、機器の使い方や発信方法等について研修する機会を設定する。 ③PTA活動の一環として、PTA通信の発行を2回、「親 to 子 with みなと」を実施する。	①市町村の特別支援教育連携協議会や特別支援学級担当者教員研修会において広報活動を行った。県内の学習支援配置校2校に対して、校内支援体制や個別の指導計画の書き方、学習支援員を効果的に活用するチーム・ティーチングについてなどの助言を行うことができた。県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に実施した。 ②各行事の担当者においてホームページの更新を適宜実施した。 ③PTA通信「みなと CREW」を年2回発行することができた。「親 to 子 with みなと」は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1320 1041 1872 1104">総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1320 1104 1872 1963"> (評定) A 巡回相談活動や研修会支援、発達障がい教育研究会の開催をとおして、高等学校等における発達障がいへの理解を促し、高等学校での特別支援教育の充実に貢献することができた。 ホームページが新システムに変わって2年目であるが、行事等の担当者が意欲的に更新を行い、毎年コンスタントに100回以上更新を続けることが出来ている。 例年同様に研修の機会を設定したり、更新しやすいICT環境作りを進めていきたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	(評定) A 巡回相談活動や研修会支援、発達障がい教育研究会の開催をとおして、高等学校等における発達障がいへの理解を促し、高等学校での特別支援教育の充実に貢献することができた。 ホームページが新システムに変わって2年目であるが、行事等の担当者が意欲的に更新を行い、毎年コンスタントに100回以上更新を続けることが出来ている。 例年同様に研修の機会を設定したり、更新しやすいICT環境作りを進めていきたい。	<p>巡回相談活動や研修会支援、発達障がい教育研究会の開催など、みなと高等学園が発達障がいに対する理解を促し、支援を行っていることは評価できる。 引き続き、関係機関と連携を図りながら取り組んでほしい。 ホームページについては、よく更新され、学校での生徒の様子がよく分かった。交流の様子もアップされているので乳幼児や利用者の様子もよく分かる。 今後も、みなと高等学園のことを広く啓発してほしい。</p>	<p>①高等学校における通級の授業について、年度初めに、個別の指導計画や授業計画についての話し合う機会が必要である。また、授業支援の充実を図ることが必要である。 ②保護者や地域への広報とともに、校内の教職員にもホームページの閲覧を勧め、他学科や他学年の取組や生徒の様子について情報共有を図る。</p>
評価指標	評価指標の達成度														
①外部依頼の教育相談件数20件、研修会等への支援回数2件以上。発達障がい教育研究会（第1回）の参加数が50人。 ②行事等のホームページ更新数100回以上。 ③新型コロナウイルスの感染症防止対策を考え、活動場所や内容を精選し、保護者と生徒と一緒に活動する会を実施する。	達成 ①・外部向け相談件数は39件。 ・研修会への支援回数は7回。 ・巡回相談員が県内の通級指導教室を設置する高等学校への支援を実施。 ・発達障がい教育研究会参加者50人。 ②・行事等のホームページ更新212回。 未達成 ③・保護者と生徒と一緒に活動する会は新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施。														
活動計画	活動計画の実施状況														
①県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して、相談支援や研修支援について広報活動を行う。県内の学習支援員配置校に対して、授業参観等を実施し、指導・支援のサポートを行う。県内の高等学校等の教員を対象にした発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に計画・実施する。 ②各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT機器の設備を充実できるように努めるとともに、機器の使い方や発信方法等について研修する機会を設定する。 ③PTA活動の一環として、PTA通信の発行を2回、「親 to 子 with みなと」を実施する。	①市町村の特別支援教育連携協議会や特別支援学級担当者教員研修会において広報活動を行った。県内の学習支援配置校2校に対して、校内支援体制や個別の指導計画の書き方、学習支援員を効果的に活用するチーム・ティーチングについてなどの助言を行うことができた。県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育研究会（同時開催：特別支援教育研修会）を12月に実施した。 ②各行事の担当者においてホームページの更新を適宜実施した。 ③PTA通信「みなと CREW」を年2回発行することができた。「親 to 子 with みなと」は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかった。														
総合評価															
(評定) A 巡回相談活動や研修会支援、発達障がい教育研究会の開催をとおして、高等学校等における発達障がいへの理解を促し、高等学校での特別支援教育の充実に貢献することができた。 ホームページが新システムに変わって2年目であるが、行事等の担当者が意欲的に更新を行い、毎年コンスタントに100回以上更新を続けることが出来ている。 例年同様に研修の機会を設定したり、更新しやすいICT環境作りを進めていきたい。															

特別活動の推進	<p>【学校目標】 学校行事・生徒会活動・部活動など望ましい集団活動を通して、心豊かな人間の育成を図るとともに、交流活動を推進し地域や人と人とのつながりを大切にする態度を養う。</p> <p>①感染症対策を充分に行った上で、学校行事を通常に近い形で実施する。〔特別活動・保健課〕 ②作業や交流活動を通して奉仕の精神を養う。〔特別活動・保健課、教科担任〕 ③安全で安心できる学校づくりに務める。〔特別活動・保健課〕 ④ハナミズキゾーン内の関係機関との連携を深め、情報を共有する。〔管理職、特別活動・保健課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①文化祭と球技大会を実施する。 ②施設訪問・交流回数年間50回以上。 ③地震・津波、火災避難訓練回数年間6回以上。 ④ゾーン関連の行事（乳児院祭りや合同避難訓練・合同避難訓練反省会）への生徒・教職員の参加。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成 ①・文化祭と球技大会を実施。 ②・施設訪問・交流回数年間50回実施。 ③・地震・津波、火災避難訓練をあわせて6回実施。 ④・ゾーン合同避難訓練および反省会を2回実施。</p> <p>未達成 ④・乳児院祭りは新型コロナウイルス感染症拡大ため未実施。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>感染症対策を充分に行った上で、工夫して学校行事を実施することができた。異年齢集団の活動や地域との交流活動をとおり、協調性や思いやり、社会貢献の精神を育むことができた。</p> <p>地域の方や近隣施設の方との交流により、円滑なコミュニケーションの方法について学ぶことができた。感染症対策として少人数グループで実施したこともあった。</p> <p>異なる想定避難訓練を関係機関と連携しながら繰り返し実施することにより、避難行動について理解・把握でき、生徒・職員とも防災に関する意識や実践力を向上させることができた。</p> <p>ゾーン合同で避難訓練を行い、連帯感や達成感・奉仕の精神を育むことができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、創意工夫して、昨年度実施できなかった文化祭や球技大会を開催している。また、ゾーンの関係施設や地域と連携した避難訓練や交流行事を行っている。保護者として学校行事に参加することはできなかったが、学校のホームページで活動の様子が見ることができ、安心している。</p> <p>各ゾーンの施設側としても、交流等を行っていただくことで、乳児や入所者にとっても楽しみの行事となっており、感謝しているとともに、今後ともぜひ継続してほしいと考えている。</p> <p>また、ゾーン合同で様々な状況を想定した訓練やゾーン内での備蓄品等の共通理解や連携についても協力していきたい。</p>	<p>①引き続き、感染症対策を充分に行った上で、学校行事を計画・実施していきたい。現存の形にとられず、生徒にとって学習効果の高い活動の在り方を検討していきたい。</p> <p>②部活動やボランティア活動、交流活動を通して、様々な場面で多くの人と関わり生徒にとって有意義な経験ができた。今後も、生徒の実態に応じて、参加の仕方や活動内容を検討しながら進めていきたい。</p> <p>③発災の危険性が高まる中、授業時間以外の生徒の所在確認や安全管理をスムーズに行うための対策を講じていきたい。</p> <p>④ゾーン合同で様々な状況を想定した訓練やゾーン内での備蓄品等の共通理解や連携方法を検討していく必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①文化祭では活動内容を精選し、授業内容を優先して生徒の発表の機会（展示・販売・表現）を準備する。球技大会は、実施種目や生徒の参加の仕方を検討する。 ②環境園芸、ビルメンテナンス、福祉サービスの授業や、部活動で奉仕活動や利用者との交流を図ったり、その準備をしたりする。 ③毎回異なった想定地震・津波避難訓練や近隣施設（ハナミズキ・乳児院）との合同火災避難訓練を実施する。 ④生徒・教職員へ、イベントボランティア参加の呼びかけを行ったり、避難訓練後の合同反省会を主催して、防災担当以外の教員が参加できる機会を設定する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①文化祭では、授業やクラスのユニット毎に生徒の発表（展示・販売・表現）を行った。球技大会は、種目をポッチャに絞り、手指消毒や換気を徹底して、全校生徒を3ブロックに分け各科対抗で行った。 ②地域の施設を訪問しての奉仕活動や、校内においてともに活動することにより、奉仕の精神を養うとともに、社会性や協調性を高めることができた。新型コロナウイルス感染症対策を充分講じた上で実施した。 ③毎回異なった想定地震・津波避難訓練や近隣施設（ハナミズキ・乳児院）との合同火災避難訓練を実施した。消火器の買い換えにあわせて、実際の消火器を使った消火訓練を行った。 ④イベントボランティアへの参加を呼びかけ、複数の生徒が参加した。避難訓練後の反省会に複数名の教員が参加するなどして、反省点や課題を共有することができた。</p>			
業務改善	<p>【学校目標】 業務改善やワークライフバランスの推進に努め、効率がよく、働きやすい職場づくりを推進する。</p> <p>①会議の時間を確保し、意見を出しやすい環境を整えるとともに、勤務時間内の終了を目指す。〔管理職〕 ②ワークライフバランスの推進に努め、メリハリのある勤務体系の構築を図る。〔管理職〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①勤務時間内に職員会議等を終了する。（実施回数の80%） ②変形労働時間制の利用者を増加する。（のべ利用職員数が職員数の20%）</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>達成 ①職員会議は計画的に11回実施し、全て勤務時間内に終了。（100%） ②22%の職員が変形労働時間制を利用した。（11人利用/50人中）</p> <p>未達成 なし</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>I C T機器の活用を図り、学校における働き方改革を推進し、業務改善やワークライフバランスの推進に努めた。職員会議等について計画的に実施するとともに、学校閉庁日を活用した変形労働時間制を周知しメリハリのある勤務体系の構築に努めた。</p>	<p>みなと高等学園では、生徒の1人1台端末の活用を含め、とくしま GIGA スクールの取組が推進されている。今後もさらにあらゆる分野について職員全員で考え、工夫し、学校教育の充実と働き方改革をより一層進めていってほしい。</p>	<p>①②引き続き学校における働き方改革を推進し、質的転換による教育力の向上と持続可能な学校作りに努める必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①職員会議日に加え、学校運営戦略会議日も45分短縮授業とし、会議の時間を確保する。資料を電子化し、事前に提示することで時間短縮を図る。 ②職員が利用しやすい変形労働時間制を計画し、活用を推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①年度初めの年間行事予定に職員会議及び学校運営戦略会議を計画することにより、事前の準備ができ予定通り実施することができた。 ②職員が利用しやすいよう4種類の変形労働時間を職員に提示し、学校閉庁日に休日をまとめ取りすることで残業時間を削減しワークライフバランスの推進に努めた。</p>			

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった